

大阪薬科大学広報委員会

リンドウ

リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. は本州，四国，九州の山野にはえる多年生草である。9—11月ごろ美しい青紫色の花を茎頂および葉腋につけるが天気の良い時や夜は閉じている。リンドウの仲間には美しい花をつけるものが沢山あり，春，日当りの良い原野に可愛らしい青紫色の花を咲かせるハルリンドウやフデリンドウ，夏，高山帯に見られるヒナリンドウやミヤマリンドウ，北海道で見られるエゾリンドウやリシリリンドウなどが代表的な種類である。花屋で切り花として売られているリンドウはエゾリンドウの栽培品である。

リンドウは日本の秋の草花として代表的なものであるが，薬用植物としても重要であり，中国産のトウリンドウ *G. scabra* Bunge var. *scabra* Bunge とともに苦味健胃生薬竜胆（リュウタン）の原植物の1つとされる。竜胆は健胃散をはじめ家庭用苦味健胃薬の原料とされるが，漢方では“肝火を瀉し下焦の湿熱を解く”といい，消炎，解熱，利胆，利尿薬として消化器，泌尿器等の充血性炎症，胆のう炎，尿道炎，流行性肝炎，リュウマチなどの際の方劑に処方される。リンドウ科の植物には苦味を有するものが多く，竜胆のほかにも苦味健胃薬，消



炎解熱薬などにされる重要な生薬がある。ヨーロッパに分布し，日本にも多量に輸入されるゲンチアナ根 *G. lutea* L. (ゲンチアナ)，中国に産する秦艽 (ジンギョウ) *G. macrophylla* Pallas, *G. dahurica* Fisch., 日本で江戸時代初期にすでに和薬として市場性があったといわれる当薬 (トウヤク) *Swertia japonica* Makino (センブリ) などが代表的なものである。リンドウをはじめとするこれらリンドウ科植物の苦味成分はいずれもイリドイド系モノテルペノイド配糖体であり，gentiopicroside (gentiopicrin), swertiamarin, amarogentin, loganin などがその代表的な成分である。

(小澤 貢)

曾根節子助教授受賞



このたび、曾根節子先生が、永年にわたって薬学教育に努力されて来た功績が認められ、大阪府知事より「薬学関係功労者」表彰を、去る10月28日に受けられました。

「薬学教育」の分野からの受賞者は、これまでもまだ1、2名ということですので、たいへん名誉でおめでたいことと存じます。

中室元教授より御寄附



本学の元教授で現在も奈良佐保女学院短期大学教授としてお元気に教えておられます中室嘉祐先生が、この秋の叙勲で、勲四等瑞宝章を授けられました。それを記念に、本学の図書館の図書費にと金一封の御寄附

がありました。理事会の承認をえて、先生の御芳志を生かすように学生諸君向の書物の購入に当てるとともに、先生に厚く御礼申し上げたいと思います。

■研究室だより

薬品物理化学(I)教室

教授 井上正敏



私共の教室はX線構造解析を主体にしており、石田助教授と共同研究の形で、核酸・ビタミン・蛋白質等生体関連重要物質と環状アミノ酸との相互関係の研究及び近時製剤面で重要なテーマであるポリモルフィズムの構造・物性の差（この場合はX線粉末法・DTA・DSCも併用します）についても検討中です。

主力をなす解析用の機械は某先生が冗談に長屋のキャデラック（多くのX線学者達が名言だと云われました）と云われたように、世界でも有名な回転対陰極型自動四軸回折計（粉末回折も同時測定出来ます）で標準型の回折計に比べると正に軽自動車とキャデラック位の差のあ

る素晴らしい機械です。ただし、水も電気も多量に消費し燃費は不良ですが。

教室員は私と土井助手、藤井副手及び6名の特別実習生がおり、来年は院生が1名来る予定です。研究室はキャデラックの置場が相当場所を取るため手狭めですが私を除いて皆張切ってやっています。時間的には相当シビヤーですが和気あいあい、夏休みの終りに石田教室と一緒に温泉廻り（片山津、栗津）をやりました。その時は石田先生とデュエットで「大阪しぐれ」を歌った次第です。

また、他大学からのサンプル依頼もあり、全員なかなか多忙な毎日です。

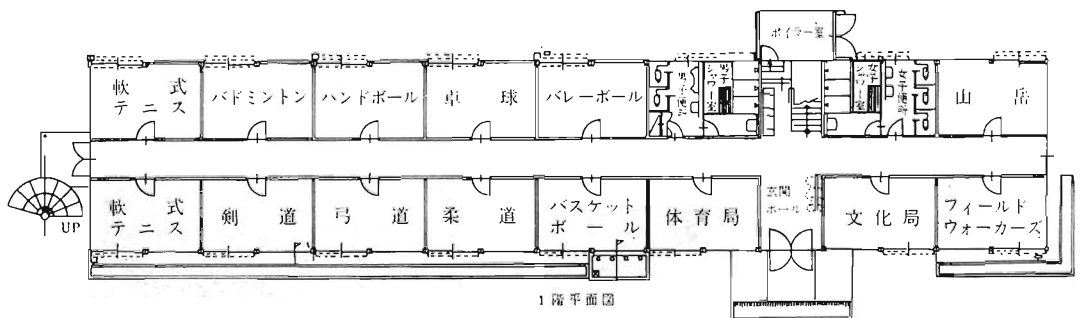
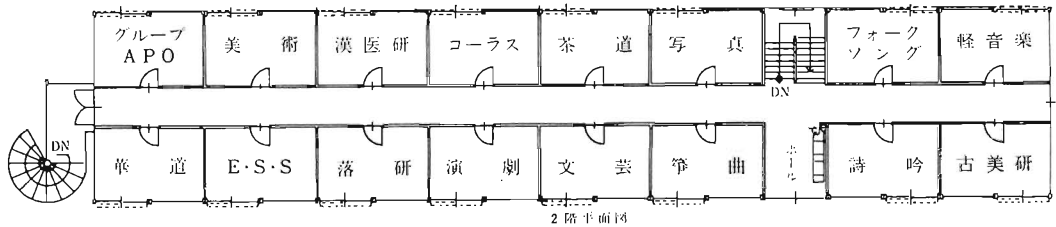
簡単ですが教室の紹介をしました。



学生クラブハウス竣工

学 生 部

学生会館の竣工に続いて、6月に着工された待望の学生クラブハウスが8月末に竣工し、9月早々に各クラブの移転が行なわれ、1階は体育局各部、2階は文化局各部が下図の様に入居しました。1階には温水シャワー室も設備され、しゃれた螺旋階段のついた、今までと違って素晴らしく立派なクラブハウスに学生諸君も満足の様子です。学生クラブハウス使用規程を守り、清潔に維持管理されるようお願い次第です。



■持主不明の落とし物の処分明確化■

従来から遺失物・拾得物の取扱い規程がなく、持主不明の拾得物がたまる一方で、その処分に困窮していた。各大学ともに同様の悩みを持っており、他

大学の規程も参考にし、今回「遺失・拾得物取扱規程」を制定し、処分方法を明確化した。なお規程全文は来年度の学生便覧に掲載の予定である。



昭和57年度公認スポーツ指導者 海外研修の報告（続）

助教授 望 月 伸 三 郎

ハンガリー

ハンガリーは11月8日（月）から11月13日（土）までの5泊6日の滞在であった。

この国は今回の研修では唯一の共産圏社会主義国である。共産圏ということで入国手続きも厳重で行動も制約されるのではないかと予想し、緊張気味に入国した。パスポートのチェックで「コンニチワ、アリガトウゴザイマス」といきなり日本語で迎えられ、びっくりしたと同時に何かしらホッとした。税関のチェックでは団体のためか一寸離れた所へ連れて行かれ、最初の1人は細かく鞆の荷物を全部調べられたので、団員の1人が検査官に日本のバッヂ、スポーツタオルをそっと渡したら、2人目は鞆を開いてOK、3人目からは鞆に手をかけただけの形式的なものにかわり、ウィンクしてニコッと笑って去って行った。

この国での滞在行事はハンガリー・オリンピック委員会とオーティエスハ（スポーツ省）による暖かい受け入れスケジュールが用意され、それに従って行動した。

宿舎はドナウ川に面した最高級ホテルの1つ、ダナ・インターコンチネンタル・ホテルであった。滞在中はブダペストのこのホテルを基地にして、ハンガリー中央スポーツ事務局を訪ね、その組織や活動について説明をうけたり、市内及び近郊のスポーツセンターを見学した。

ホテルの夕食時には、紅い民族衣裳をまとったバイオリン中心の楽団が演奏してくれた。国際的なホテルなのでいろいろな国の人がいるが、客のリクエストに応じ楽符なしに演奏してくれた。吾々が

到着した最初の日、別にリクエストもしないのに日本人の団体客と察してか、テーブルに着いた途端、サクラ・サクラから荒城の月、スキヤキソングといった曲を演奏し、団員を感激させた。吾々の滞在中は夕食のたびにこれらの曲を演奏して歓迎してくれた。

オーティエスハ（スポーツ省）は日本の文部省体育局と日本体育協会を一つにしたような委員会で国営であるから会長は大臣である。このオーティエスハはハンガリーのスポーツ活動の構成と組織を統括しており、体育の活動分野として学校体育と軍隊の体操教育の教育内容の管理がこの組織に任されている。スポーツ活動の目標としては、①大衆スポーツ、②競技スポーツ、③国際スポーツ、④体育研究の4点をあげ、これらを社会的、国家的に強力に推進している。

こうした説明を受けたあと、ハンガリーの代表的スポーツ施設を見学したのであるが、ここにその3つを簡単に紹介する。



ドナウ川、前から2隻目の船のところからダナ・インターコンチネンタル・ホテル

(1) ハンガリー中央スポーツ学校

ジュニア選手強化のための学校で、生徒数は1700~1800人、体操と水泳が6才から、他の競技は10才から入学出来ることになっており、18才までとなっている。

例えば、この学校でのボクシング競技の少年は50人位で、日曜日を除く毎日10時~18時までが練習にあてられている。つまり学校の放課後に少年達は練習にやってくるわけである。そして少年達の発育状態や身体機能の発達段階（体力測定の結果など）に応じて、そのレベルに合った専門のコーチが指導するのである。

吾々の見学した午後4時頃は小学校、中学校ぐらいの少年、少女がボクシング、卓球、レスリング、バスケットボールなどの指導を受けていた。帰りの校門では高校生ぐらいの青少年達がスポーツバッグをさげて入って来ていた。1カ所で色々な種目のトレーニングがそれぞれ行われていることは、とても素晴らしいと思った。



ブダペスト中央体育館（外から）

(2) タタ中央トレーニングセンター

ブダペストから高速道路を南へ70km、隣りた田舎町の一角にそのトレーニングセンターがあった。このセンターは選手強化のための施設であると説明を受けた。

敷地30ヘクタールの中には宿舎棟（200人収容）と3棟の体育館があり、体育館は球技用、陸上競技屋内練習場、近代五種の射撃場などとなっており、体力トレーニング用と思われる3コース、25mの屋内プールも設置されていた。

屋外競技場としては陸上競技場2カ所、サッカー場2面、バレーボールコート、バスケットボールコートなどがあった。ここでもサッカー場、陸上競技のフィールドは、手入れの行き届いた鮮やかな芝生には、思わずとんだり跳ねたりしたい意欲にかりたてられる。どの施設にも観客席のようなものはなく、公式競技は一切開かず、選手強化のためにのみ徹底して活用されている感じであった。

ここを訪問した時は、センター



タタ・トレーニングセンター近くの酒蔵の前



ブダペスト中央体育館（内部）

の所長が予定を早目に切り上げて、午後の余った時間で近くのワインの酒蔵に案内してくれた。表向きは普通の平凡な家だが、中に入ると地下室へ降りる階段があり、降りて少し進むとやや仄い場所があって、そこから放射状に八方に穴倉が伸びている。この穴倉の真中が通路で、その両側には直径4 mぐらいの大きな樽が向い合っていて、それぞれ10個ぐらい奥まで縦に並んでいるので、100個ぐらいはあるだろうと思われた。樽は昔むして、ところどころ白い蠟に覆われ、何十年、何百年かの年代を感じさせる。樽から直接ワインを汲み出して、何種類かのワインをすすめてくれる。1回1回説明しながらグラスをかえて差し出す自慢のワインらしいが、ワインを飲みきれない味音痴にはどれも同じような味に感じられる。飲み放題のサービスに全員いつしか酔わされて、歌う者、5〜6人居た女性の管理人と踊る者など、地下の酒蔵は賑やかな宴会場になってしまった。案内したトレーニングセンター所長は、これがほんとうの研修だと大変喜んでた。

(3) 国立ブダペスト体育館

1982年2月オープンして半年余り、ハンガリーの誇る大体育館である。総工費1700億フォリント(40億ドル)、日本円にして約1兆円、完成には3年を要した非常にスケールの大きい多目的体育館である。

その内容は床面積 $90 \times 45 \text{ m} = 4050 \text{ m}^2$ 、容積 255000 m^3 、照明500カ所2000ルクス、観客席は5階の高さまで傾斜状に設置され、最上階はTV、ラジオの調整室、放送室、記者室、医務室、電話交換室、記録用テレックス(14台)、コンピューター室など、その他競技に必要な部屋17室があり、競技施設は1階のメインアリーナー、ステージ、地下にはアイスアリーナー、サブとしての体育館、空気調整機械室、選手控室、サウナ浴室などがあり、地下2階は各種用具室になっていて、用具の出し入れは大型1基、小型2基のエレベーターで運搬出来るようになっている。客席は12000人(フロア使用)

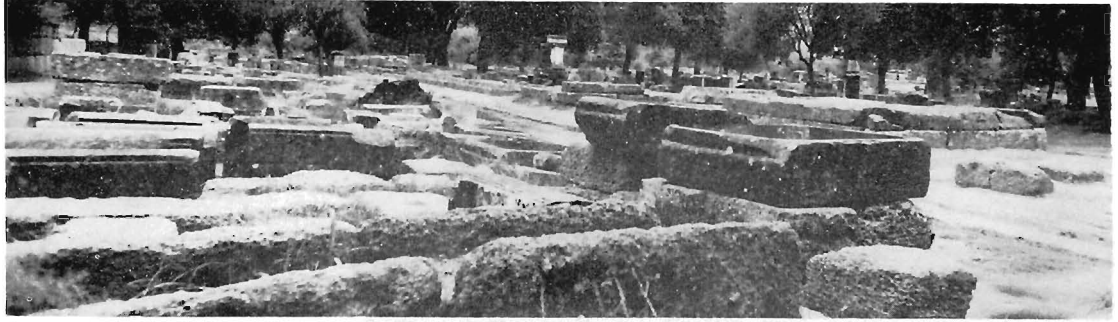
収容出来るようになっていて、職員90人(ほとんどが技術者)で設備はすべて自動化され、ボタン一つで操作出来るようになっている。

附属施設として、この体育館の外に観客席5万人収容のスタンド付サッカー場と補助サッカー場、練習用陸上競技場、体育館、別棟に国内36競技種目団体の事務局があり、これらを含めて1つの施設として管理されている。

この施設と隣接して高層の国営ホテルがあり、国際大会等の開催時には選手村として使用されるが、選手はホテルの3階から歩道橋で直接体育館に入れるようになっている。市民は地下鉄で体育館に来た場合は、路上に出ないで地下道から入れるようになっており、駐車場は800台収容出来る。

折りしも12月2日から11日まで開かれる世界ハンドボール選手権大会女子の大会が、この体育館をメイン会場として行う準備をすすめられており、ハンガリー女子ナショナルチームが練習に励んでいた。練習が終わった時、吾々は日本体協のスポーツ指導者の研修団であり、私が日本ハンドボール協会のレフェリーであると自己紹介すると、その監督は「優秀な日本チームが今回来れないのは残念だ」と社交辞令の挨拶をしてくれた。

この12月の大会では、アジア予選で日本に勝って参加



オリンピアの遺跡

した韓国チームは6位に入賞，ヨーロッパ以外のチームが6位までに入った事は始めてで，アジアのレベルも高くなったとの評価を受けた。

ギリシャ

今回の最初の訪問国イギリスが近代スポーツ発祥の地とするならば，最終行程として11月13日（土）から11月18日（木）まで滞在したギリシャは，古代スポーツ発祥の地である。ギリシャ神話にまつわる数々の神殿の遺跡，とりわけオリンピアの遺跡を見学する永年の夢が間近にかなえられるとの期待で，ギリシャ到着の第1日目，アテネでの夜は興奮して仲々眠れなかった。

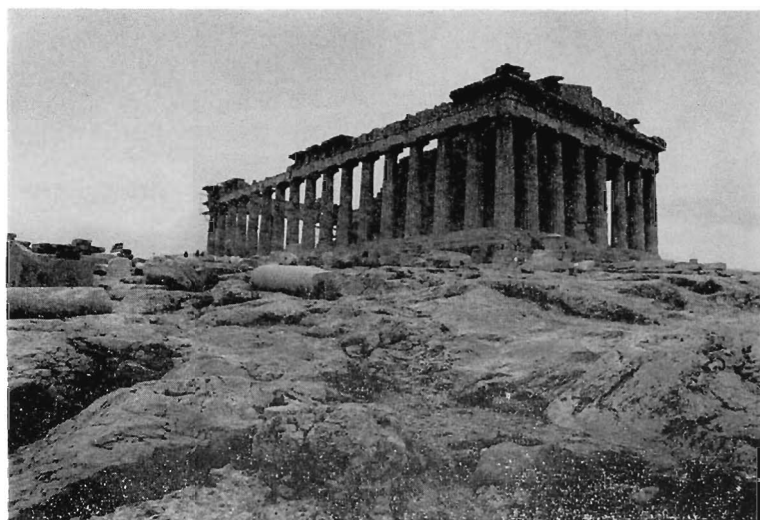
翌朝は真青に晴れ渡ったアテネからオリンピアを目指し，一路約430 km，途中の休憩をはさんで6時間余，バスはオリンピアの町はずれにあるアマリア・オリンピックホテルに午後2時20分頃着いた。遅い昼食をホテルでとって，そのあとオリンピアの町というより村といった感じの鄙びた田舎町を散策した。青い空，緑のオリーブに澄んだ空気は都会の喧噪を離れてすがすがしい気分をさせてくれた。アマリア・オリンピックホテルはこんな田舎にそぐわない超一流の豪華なホテルで，シーズン・オフのため4～5人の泊り客が居ただけで，大きなホテルは閑散としていて吾々の研修団11名が貸切りの感じでゆっくりと

寛ぐことが出来た。ガイドさんの話によると，このホテルはギリシャが近代オリンピック100周年を記念する1996年のオリンピックを開催する準備の一環として，オリンピック競技やその他の催し物（100周年記念行事）の準備とか，打ち合せのため外国から来る各国の要人の宿泊所と会議場を兼ねて建てられたものである。田舎町にそぐわない豪華な高級ホテルはそのために用意されているとのことだった。

明けてオリンピアでの2日目は朝から時折激しく降る雨の1日だった。この日は1日かけてゆっくりと遺跡をみて廻る予定だったが，雨の中をガイドの説明を受けながら大急ぎで遺跡を駆けめぐり，博物館を見学して昼からは休養となった。ゼウスとその妻，ヘラの神殿跡とし



オリンピアの遺跡



アテネ市内 バルテノン神殿

て有名なオリンピアの遺跡は、ペロポネス半島の西部にあり、おだやかな松並木とアルフェオス川に囲まれたオリンピアの森の中に大理石で建設された古代オリンピック競技場・ジムナジオンをはじめ、トレーニングや更衣用の部屋パライストラとか、優勝者をもてなす部屋フェタリオン・馬蹄形の会議所や宝物殿など、2700年の歴史と当時の若者が自分の全霊を打ち込んで競技に賭けた青春のロマンを、雨の音は時には激しく、時には囁くように語りかけてくれた。

国際オリンピック・アカデミーの建物や、クーベルタンが心臓を納めてあると言われる白い碑を見学することが出来なかったことを心に残しつつ……、翌日はアテネに戻りアテネ市内の施設や遺跡を見学した。

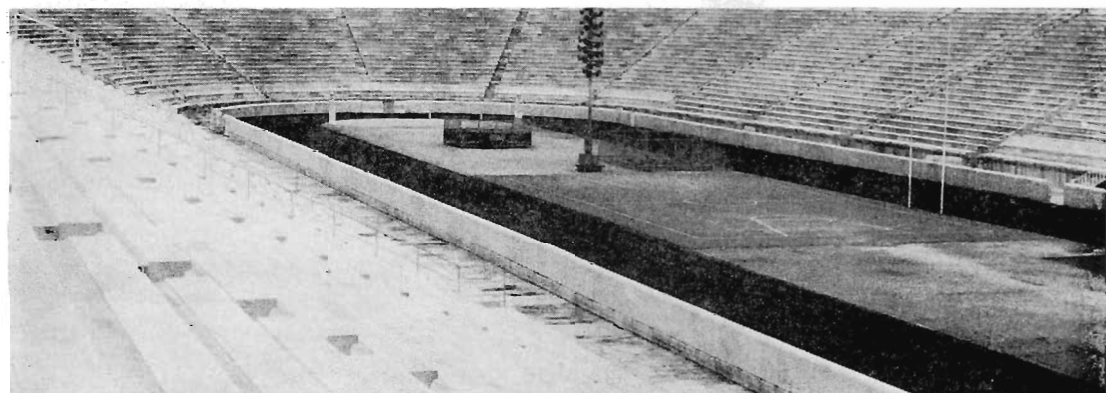
(1) パンアテナイコ・スタジアム

パンアテナイコ・スタジアムは、1896年（明治29年）に近代オリンピック第1回の会場として建設されたものである。総大理石で造られ7万人を収容する競技場の内部は、トラックが直線走るだけの競技だったため、長さ192m、巾33m、半径8mの細長い競技場

を、すべての座席から死角が出ないよう曲線的に造られている。

クーベルタンが「近代オリンピックはアクロポリス（神殿）で洗礼を受けることにより初めて栄光の継承者になりうる」と強く主張してギリシャ王室の協力を求め富豪G・アベロフが私財を投げうって援助し、ようやく開催にこぎつけた大会の競技場である。

今は、バスケットボール、バレーボール、陸上競技のトレーニングなどが行われているとのことである。



近代オリンピック第1回（1896年）が開催された
パンアテナイコ・スタジアム

(2) 100周年記念オリンピック
センター

1996年の近代オリンピック100周年記念大会をギリシャで開催しようとアテネ市郊外のガログレティアで100万㎡に及ぶ広大な敷地内に「オリンピック・スポーツセンター」があった。観客8万人を収容する主競技場は「アテネ・オリンピック・スタジアム」と命名されている。スタジアムとトレーニング・フィールドは地下道で連絡され、選手控室まで直接車で乗り入れられるようになっているなど、さまざまな工夫がみられる。

このほか関連施設として陸上競技場（トレーニング・フィールド）3面、体育館、屋内プール、屋内競技場（200mトラック）、テニスコート、スポーツパレス、アカデミアスクール、宿泊施設など100周年記念大会開催に対する意気込みと並々ならぬ努力には、国民のスポーツに対する理解と政策を羨ましく感じさせられた。

古代オリンピックはBC 776年に始まり、競技の栄光は政治的利用、プロ化、ショー化、競技の不正などから衰退の道をたどり、宗教的弾圧などもあって、およそ1200年近く続いたその歴史をAD 393年に閉じた。近代



スーニオン岬 ポセイドンの神殿

オリンピックは1896年以來、約90年になろうとしているが、すでにプロ化、ショー化など商業リズムやステートアマ、企業アマ、ナショナルリズム、ドーピング、ボイコット問題などその他沢山の問題が山積している現状では、古代オリンピックのように1200年も続けることが出来るであろうか。清く・正しく・明るいオリンピックとして永久に続くための努力を怠ってはならない。それが時代に生きるスポーツマンの責務であろうと痛感して研修の旅を終えた。



100周年記念のために造られた主競技場
(アテネ・オリンピック・スタジアム)

後期行事予定表

12月17日(土)	特別実習, 特別講義配属最終決定
12月24日(土)	後期授業終了(4回生)
12月25日(日)	冬季休業
59年? 1月8日(日)	
1月9日(月)	授業開始(1~3回生)
1月9日(月)	後期試験(4回生)
1月20日(金)	
1月14日(土)	後期授業終了(1~3回生)
1月17日(火)	後期試験(1~3回生)
1月28日(土)	
1月24日(火)	後期追試験(4回生)
1月27日(金)	
1月30日(月)	後期再試験(4回生)
2月7日(火)	
1月31日(火)	後期追試験(2~3回生)
2月3日(金)	
2月11日(土)	入学試験
2月18日(土)	入学試験合格者発表
2月20日(月)	後期再試験(1~3回生)
2月28日(火)	
2月20日(月)	大学院修士論文提出
2月21日(火)	最終試験(4回生)
2月25日(土)	
2月29日(水)	特別実習発表会
3月2日(金)	卒業生発表
3月3日(土)	第8回大学院修士論文発表会
3月15日(木)	大学院修士課程修了者発表
3月16日(金)	進級者発表(1~3回生)
3月19日(月)	卒業式

大学ごよみ

7月11日(月)	夏季休業
9月10日(土)	
8月6日(土)	卒後教育講習会第一日
8月31日(水)	学生クラブハウス竣工
9月12日(月)	授業開始
9月17日(土)	前期授業終了
9月18日(日)	卒後教育講習会最終日
9月20日(火)	前期試験
9月29日(木)	
10月1日(土)	後期授業開始
10月11日(火)	大学院入学試験
10月14日(金)	大学院入学試験合格発表
10月15日(土)	第65回薬剤師国家試験
10月16日(日)	
10月17日(月)	前期追試験(2~4回生)
10月19日(水)	
11月2日(水)	第18回大薬祭
11月5日(土)	
12月1日(木)	前期再試験
12月5日(月)	

国家試験の結果について

本年度秋に施行された薬剤師ならびに臨床検査技師の国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験(58.10.15~16施行, 58.11.11発表)

	受験者	合格者	合格率	全国平均 合格率
第65回	55名	22名	40.0%	47.51%

◎臨床検査技師国家試験(58.9.18施行, 58.11.2発表)

	受験者	合格者	合格率	全国平均 合格率
第25回	12名	3名	25.0%	15.2%

人事異動

事務職員発令(58・8・1)

福永治久(施設課 新採用)

副手発令(58・10・1)

上田洋子(薬剂学 新採用)

退職(58・8・31)

杉本京美(事務職員)

大学院薬学研究科長発令(58・11・1)

平野 弘(教授)

